



市、震災復興記憶集

「あの日」の「想い」  
「明日への「希望」」

十年前の東日本大震災時の日々などをまとめた『いわき市・東日本大震災復興記憶集』未来に残したいあの日への「想い」、明日への「希望」(A4版・九十一ページ) 写真右下

この七月、市から発行された。部数は千部。

今回の記憶集は、「震災で得た経験や教訓を今後の防災対策などの対応に役立てるとともに、市民のさまざまな思いを後世に伝えたい」として発刊に踏み切った。

冊子は四部構成で、一章では大地震の概要のほか、発生に伴う大津波、被害概要、また、原



発事故でのいわきへの影響などが写真入りでまとめられており、本誌も震災直後に撮影した市内の当時の写真を提供した。二、四章では復興・復旧・創生、防災に関する未来づくり、さらに、多くの人たちからの寄稿文も掲載されている。

「犬と暮らす家」  
渡辺町にオープン

すまい倶楽部

本は、市内の小中学校にも配布された。

泉町、すまい倶楽部(田子浩彰社長)は七月三十一日、渡辺町の大型分譲住宅地・ヴェルデガーデン泉地内にモデルハウス「犬と暮らす家」をオープンした。

テーマは「テラスでペットと過ごせる豊かな暮らしの家」。ペットを飼うことを夢見る家族に向けて作った。

モデルハウスは木造二階建てで、4LDK。犬の出入りが楽との連携を強めることで、「唯一無二の水族館、コロナ禍による落ち込みの打破を目指していく」と、抱負を語った。

また、教育普及活動にも力を入れるとし、「地球環境は悪化の一途をたどっているが、打開するには、子どもたちが希望ある未来を創造することが大切。現実的には厳しいかもしれないが、将来的には、啓発拠点となる『子ども海洋未来館』の建設を目指したい」と、展望を描いていた。

平成十二(二〇〇〇)年の開館時から理事長兼館長を務めてきた安部義孝さん(八〇)の退任に伴い、理事会で後任に選ばれた。安部さんは名誉館長として運営を支えていく。

館長に古川さん就任  
アクアマリン発展を決意

小名浜、アクアマリンふくしまの館長と、同施設を管理運営するふくしま海洋科学館の理事長に七月六日、統括学芸員を務



理事長兼館長に就任し、抱負を語る古川さん

めていた古川健さん(五八)が就任した。「子どもたちの明るい未来の創造を支援したい」と、決意を固めている。

古川さんは昭和三十七(一九六二)年、東京都生まれ。幼少期から生き物を飼うことが好きで、中学時代にテレビで見た「沖縄国際海洋博覧会」の映像などに引かれ、現在の道に進んだという。

東海海洋学部を卒業後、同六十一年から松島水族館(宮城県)で飼育員を担当。教育普及活動を志し、平成八(一九九六)年

に福島県教育委員会に入職、「生涯学習の推進」などを掲げる、アクアマリンふくしまの立ち上げ業務に尽力した。同十年からふくしま海洋科学館に在職。県教委の所管で設置されている水族館は、全国でも同館だけで、教育普及活動は大きな目玉。出前授業、移動水族館、職場体験などに取り組んでいるが、いずれも古川さんが発案して進めてきた。

今後の運営目標について古川さんは、「開館当初から調査研究を続けてきたシーラカンスをはじめ、当館で見ることのできない生物の種類数を増やすなど、展示生物の独自性を高め、いく」と強調。世界各地の水族館や研究機関、さらに地域



すまい倶楽部がオープンさせたモデルハウス「犬と暮らす家」

な広いテラスが特徴。一階リビングを一段下げ、窓を隔ててテラスと同じ高さにしており、室内にも出入りしやすい工夫が。フローリングは無垢材で、温かみがある。

このほか、キッチンダイニングや収納庫、洗面所、浴室が一直線になった「家事ラク回遊動線」を確保し、暮らしやすさにも十分配慮。二階には「秘密基地」となる書斎もあり、同社が掲げる「早く帰りたい家」を実現している。

コロナ禍の感染症対策として、見学は完全予約制(火・水曜を除く)。HPまたはLINE、電話を通じて申し込みのこと。詳しくは、同社(フリーダイヤル〇二二〇一五六二一八八三)まで。

【訂正】本誌八月号のりいど倶楽部「ただ今、何点？」の「吉田あゆみさん」の記事中、「入社十年目」は「四年目」の誤りでした。